

鳴上遺跡群 32

小
郡

2008

高槻市教育委員会

鳴上遺跡群 32

はしがき

平成19年度も、市内各所におきまして個人住宅の建設や史跡現状変更等に先立ち、埋蔵文化財の調査を実施してきました。

高櫻城跡や郡家本町遺跡におきましては個人住宅の建設に関わる小規模な調査を実施しています。高櫻城跡の調査では外堀の状況や郡家本町遺跡の調査では島上郡衙跡周辺の状況を知ることができますなど、各遺跡の具体的な内容や広がりを考えるうえで基礎的な資料が蓄積されています。また、平成16年度に発見された市域西部のミクリ遺跡では遺跡が周知され、開発とともにうなう調査が実施されるようになり、遺跡の規模や内容の把握に努めています。

史跡今城塚古墳では、史跡整備工事が4年目を迎え、市民の歴史学習や憩いの場となることを目指して工事をすすめています。これに合わせて事前調査を実施していますが、今回は前方部の南北両端部と造出基部、後凹部上面では基盤工の一部とみられる礫群を検出しました。

史跡鶴鷺山古墳では、前方部東側及び南側丘陵部の状況を把握するための調査を実施した。また、あわせて後凹部北側の状況を確認するために調査坑を設定しました。今回、明らかになった調査結果を今後の調査や整備に活かしていくものです。

最後に、本書をまとめるにあたり、ご教示やご協力いただいた関係機関をはじめ、多くの方々に心から感謝申し上げます。

平成20年3月31日

高櫻市教育委員会 文化財課

課長 森田克行

例　　言

1. 本書は、高槻市教育委員会が平成19年度国庫補助事業として計画、実施した高槻市所在の史跡・鶴上郡衙跡附寺跡堀辺部及び市内遺跡の発掘調査事業（総額2,500,000円）の概要報告書である。

2. 事業は、高槻市教育委員会の直営事業として実施し、大阪府教育委員会の助力を得て、平成19年6月14日に着手し、平成20年3月31日に終了した。

3. 調査は、高槻市教育委員会文化財課埋蔵文化財調査センターがおこなった。本書の執筆・図面作成・製図は、鐘ヶ江一朗、橋本久和、宮崎康雄、高橋公一、早川圭、西村恵祥、佐伯めぐみがおこない、分担は文末に記した。遺構・遺物の写真撮影は清水良貞が担当した。整理作業については以下の各氏が参加した。厚く感謝する。

白銀良子、西岡和江、梅靖代、池田理美、原綾子、前田幸美、瓦林三千代

4. 調査の実施にあたり、以下に掲げる土地所有者の方々をはじめ、関係機関各位のご協力をいただいた。ここに記して感謝いたします。

中嶋信裕 富永美智子 静達也 静千寿子 佐々木光正 稲島赳一郎 松政武

奥久人 美美智子 森木教史 笠原勇 平手隆之

目 次

I	島上郡衙跡	1
II	中城遺跡	3
III	高槻城跡	4
IV	ミクリ遺跡	6
V	郡家本町遺跡	8
VI	津之江南遺跡	10
VII	富田遺跡	11
VIII	出土遺物保存処理	12
IX	關鶴山古墳規模確認調査	13
X	今城塚古墳事前確認調査	14

No.	遺跡名(地区)	調査地	面積(㎡)	申請者
1	島上郡衙跡(34-K-L-O-P)	郡家新町270、271、272、273の各先	32.66	郡家本町実行組合
2	中城遺跡(2007-1)	昭和町二丁目127	263.99	個人
3	高槻城跡(2007-1)	野見町1251-6、1251-8、 1251-21の各一部	223.76	個人
4	高槻城跡(2007-2)	八幡町1495-2	97.66	個人
5	ミクリ遺跡(2007-1)	西町1041-64	130.66	個人
6	タ(2007-2)	西町38-11	135.24	個人
7	郡家本町遺跡(2007-1)	郡家本町1606-1	97.55	個人
8	タ(2007-2)	郡家本町1565-3	264.9	個人
9	津之江南遺跡(2007-1)	津之江北町263-18	91.18	個人
10	富田遺跡(2007-1)	富田町六丁目12671	435.4	個人

平成19年度 市内遺跡調査一覧

I. 島上郡衙跡

1. 島上郡衙跡（34-K・L・O・P地区）の調査

調査地は高槻市郡家新町270、271、272、273番地の各先にあたり、小字名は「宮脇」である。現状は水田である。このたび、地元実行組合が農業用水路補修工事を計画し、史跡現状変更許可申請書が提出された。史跡現状変更許可を受け、工事に先立ち発掘調査を実施した。

調査は延長約50mにわたり、幅約0.6mの調査坑を設定した。工事計画に沿って、地表面から深さ約0.3mまで掘削し、調査坑全体を精査した。当該地周辺は大正から昭和初期にかけて耕地整理が実施され、削平や盛土が繰り替えられている。5~6m間隔で土層断面図を作成したが、掘削深度が浅く耕土と床土、その下層に青色粘土や黄灰色粘土を確認したが遺構を検出することはできなかった。掘削作業中に少量の須恵器や瓦、近世陶器の破片を検出した。

(橋本)



図1 島上郡衙跡（34-K・L・O・P）調査位置図

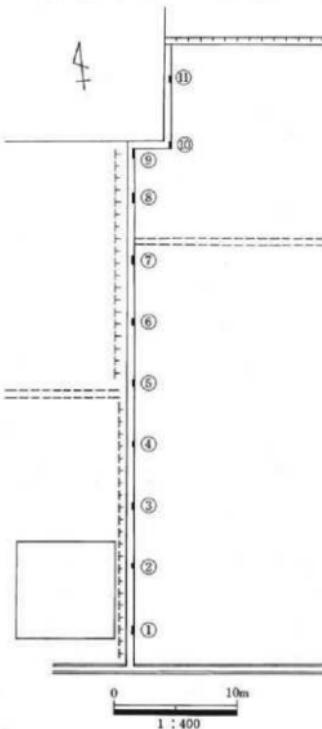


図2 島上郡衙跡（34-K・L・O・P）断面作成地点

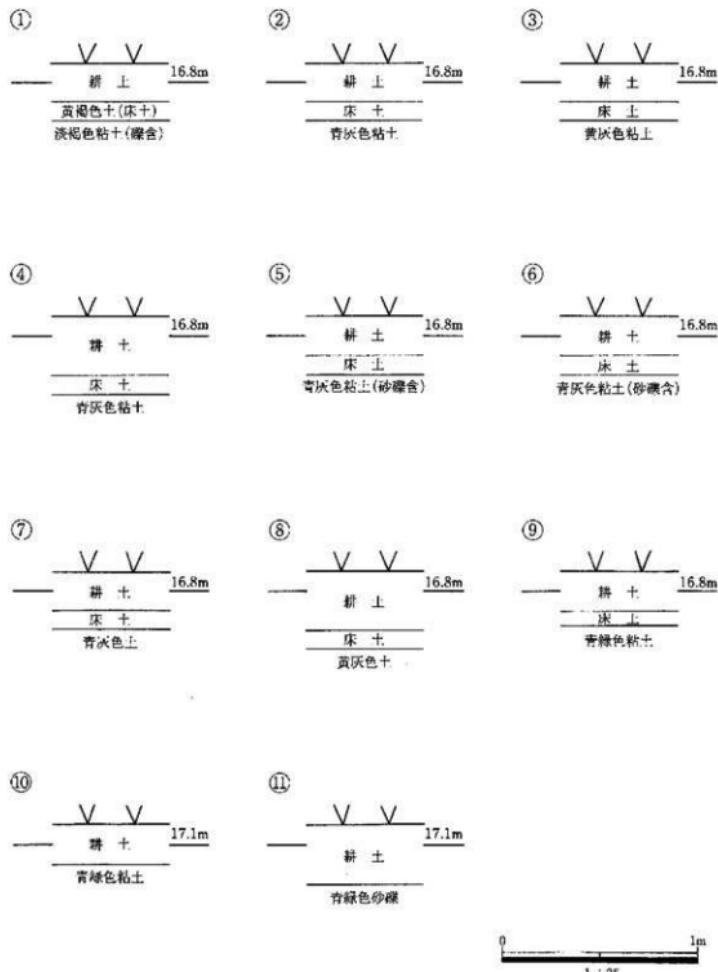


図3 岐上郡衙跡(34-K-L-O-P) 土層模式図

II. 中城遺跡

1. 中城遺跡（2007-1）の調査

調査地は昭和台町二丁目127番地にあたり、小字名は「安房」で、現状は宅地である。調査地より北方200mの地点では平成7年度に多量の埋蔵鏡が出土している。

調査は個人住宅建設工事に先立って工事立会を実施したもので、土層の観察と遺構の確認を行った。層序は盛土（0.25m）、地山（赤褐色粘質土：0.25m以上）であり、遺構・遺物は確認できなかった。

(早川)



図4 中城遺跡（2007-1）調査位置図

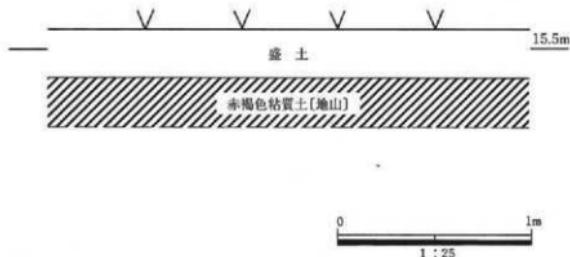


図5 中城遺跡（2007-1）土層模式図

III. 高槻城跡

1. 高槻城跡（2007-1）の調査

調査地は野見町1251-6、1251-8、1251-21番地の各一部で、小字名は「条路山」、現状は宅地である。調査地は近世高槻城跡出丸西側の外堀に相当する位置にある。周辺では地表下0.7~1.0mで堀の埋土とみられる青灰色粘土が確認されている。

調査は個人住宅建設工事に先立って発掘調査を実施したもので、届出地の北東部に調査区を設定し、重機で盛土を除去し、精査を行った。基礎振削は盛土（0.3m以上）内におさまり、遺構・遺物は確認できなかつた。

（早川）



図6 高槻城跡（2007-1）調査位置図

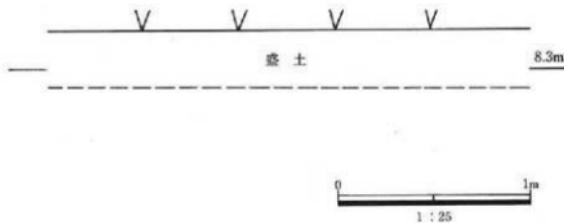


図7 高槻城跡（2007-1）土層模式図

2. 高櫻城跡（2007-2）の調査

調査地は八幡町1495-2番地にあたり、小字名は「桜之馬場」、現状は宅地である。調査地は近世高櫻城跡の三の丸東側の外堀に相当する位置にある。周辺では近年個人住宅の建て替えが増加しており、地表下0.9~1.4mで外堀の埋土とみられる青灰色粘土層が確認されている。

調査は個人住宅建設工事に先立って工事立会を実施したもので、土層の観察と遺構の確認を行った。層序は盛土（0.55m）、黒灰色灰層（0.05m）、暗褐色砂質土（0.3m）、

青灰色粘土である。青灰色粘土は堀の埋土とみられるが、遺構・遺物は確認できなかった。



図8 高櫻城跡（2007-2）調査位置図

(早川)

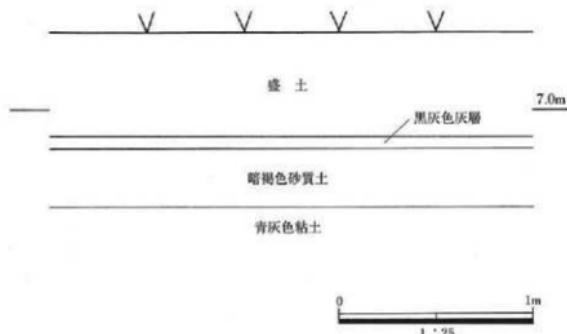


図9 高櫻城跡（2007-2）土層模式図

IV. ミクリ遺跡

1. ミクリ遺跡（2007-1）の調査

調査地は高槻市西町1041-64番地にあたり、小字名は「井ノ尻」である。現状は宅地である。当該地の西約200mにある府道の調査で弥生時代中期の流路、古墳時代前期の水田、中世以降の耕作面が確認されている。

調査は個人住宅建設工事に先立ち工事立会を実施したもので、土層の観察と遺構の確認を行った。層序は盛土（にぶい褐色砂質土：0.65m）、耕土（灰褐色粘土：0.3m以上）であり、遺構・遺物は確認できなかった。

（西村）



図10 ミクリ遺跡 (2007-1) 調査位置図

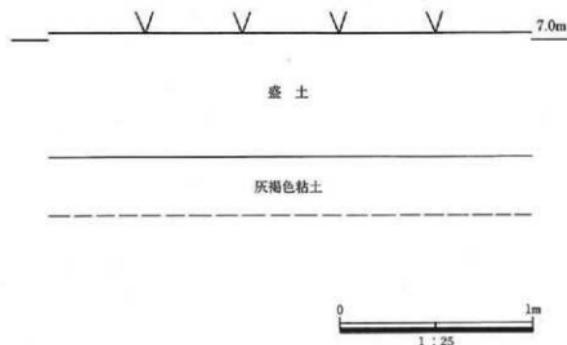


図11 ミクリ遺跡 (2007-1) 土層模式図

2. ミクリ遺跡（2007-2）の調査

調査地は西町38-11番地にあたり、小字名は「三白」、現状は宅地である。

調査は個人住宅建設工事に先立って工事立会を実施したもので、土層の観察と遺構の確認を行った。基礎掘削は盛土（粘土混じりの黄褐色砂質土：0.5m）内におさまり、遺構・遺物は確認できなかった。

（早川）



図12 ミクリ遺跡（2007-2）調査位置図

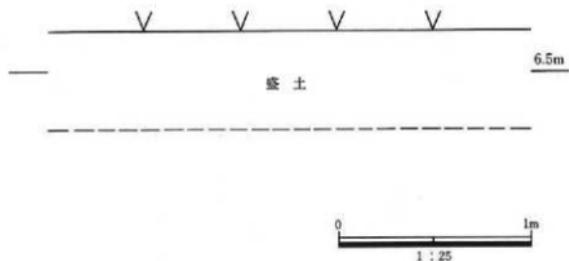


図13 ミクリ遺跡（2007-2）土層模式図

V. 郡家本町遺跡

1. 郡家本町遺跡（2007-1）の調査

調査地は郡家本町1606-1番地にあたり、小字名は「東上野」である。郡家本町の丘陵北端に位置し、現状は宅地で、個人住宅建設工事に先立って発掘調査を実施した。

届出地の中央に調査区を設定し、盛土を除去すると溝・土坑各1、柱穴2を検出した。

柱穴は直径0.15~0.2m、深さ約0.1mを測り、内部に直径0.1m以下の砾数個が入っていた。溝は0.3m、深さ0.15~0.2mを測る。断面は逆台形を呈し、底には多量の直径0.1m以下の円礫が貼り付いていたことから、土坑へ流れ込む流路とみられる。土坑は北半が0.15mと浅く、南半では0.5m以上を測る。平面形や深さは調査区外となり不明である。遺物は柱穴内から土師器の細片が出土したが、時期は明らかでない。今後、隣接地の調査による遺構の解明が期待される。

(早川)



図14 郡家本町遺跡（2007-1）調査位置図

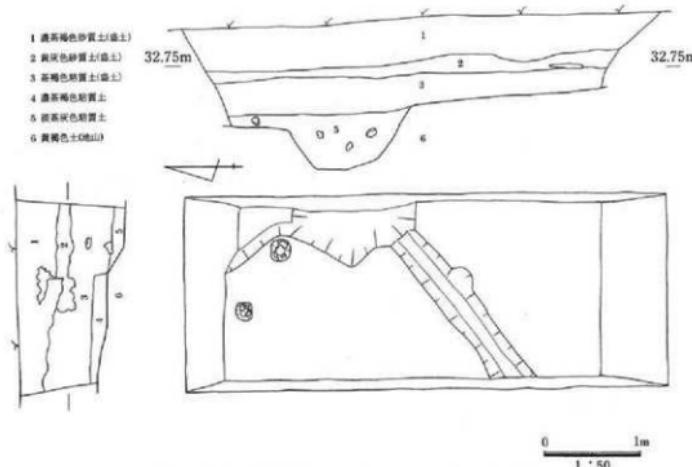


図15 郡家本町遺跡（2007-1）トレンチ平面図・土層図

2. 郡家本町遺跡（2007-2）の調査

調査地は高槻市郡家本町1565-3番地にあたり、小字名は「御坂山」である。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設工事が計画され、工事に先立って立会を実施した。当該地は鶴上郡街路北側の丘陵部南側斜面にあたり、周辺部では弥生時代の堅穴式住居や奈良時代の掘立柱建物が検出されている。

工事立会は基礎掘削にあわせて、土層の観察と遺構の確認をおこなった。層序は褐色土（0.2m）、砂礫混じり褐色土と堆積する。郡家本町の丘陵部では地山に拳大の砂礫が混入していることが多く、下層の砂礫混じり褐色土の堆積は1m以上になるため当該地周辺の地山を形成しているものと判断される。遺構、遺物は検出されなかった。



図16 郡家本町遺跡（2007-2）調査位置図

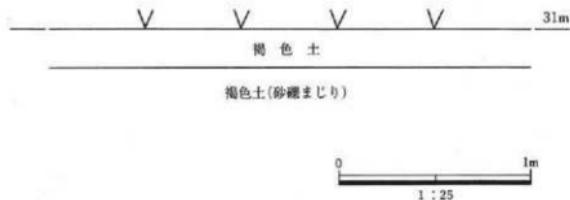


図17 郡家本町遺跡（2007-2）土層模式図

VII. 津之江南遺跡

1. 津之江南遺跡（2007-1）の調査

調査地は高槻市津之江北町263-18番地にあたり、小字名は「岸之下」である。現状は宅地である。

当該地の周辺からは弥生時代の竪穴住居・方形周溝墓、奈良から平安時代の掘立柱建物、鎌倉時代の井戸・溝などが確認されている。

調査は個人住宅建設工事に伴って工事立会を実施したもので、土層の観察と遺構の確認を行った。層序は盛土（灰褐色砂質シルトなど：0.7m）、耕土（暗灰褐色シルト：0.1m以上）であり、遺構・遺物は確認できなかった。



図18 津之江南遺跡（2007-1）調査位置図

(西村)

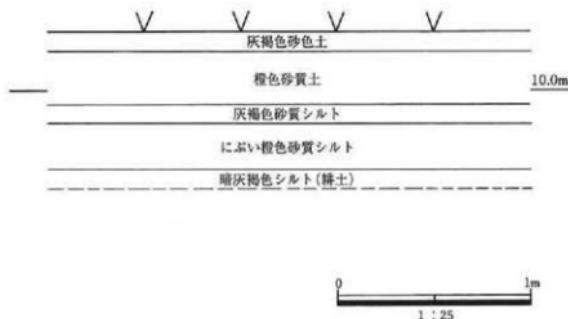


図19 津之江南遺跡（2007-1）土層模式図

VII. 富田遺跡

1. 富田遺跡（2007-1）の調査

調査地は富田町六丁目2671番地にあたり、小字名は「横町」、現状は宅地である。

当該調査地周辺は富田台地上に位置し、調査地の南隣では天文元年（1532）の天文法華の乱による焼土層や遺物が検出されている。

調査は個人住宅の建設に先立って工事立会を実施したもので、土層の観察と造構の確認を行った。層序は盛土（0.3m）、淡黄灰色砂質土（0.07m）、淡茶灰色粘質土である。淡茶灰色粘質土の上面で焼土混じりの鉄釘や瓦片を含む淡茶灰色粘質土を確認した。

既往の調査成果を合わせると調査地周辺は富田台地上にもあたることから、今後、天文法華の乱に伴う焼土層および造構・遺物の確認が予想される。

（早川）



図20 富田遺跡（2007-1）調査位置図

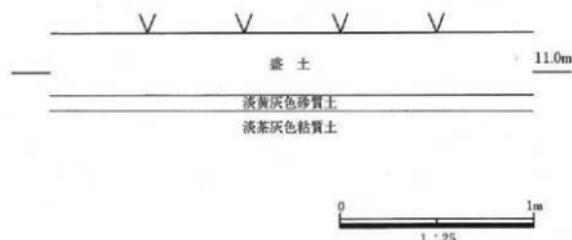


図21 富田遺跡（2007-1）土層模式図

VIII. 出土遺物保存処理

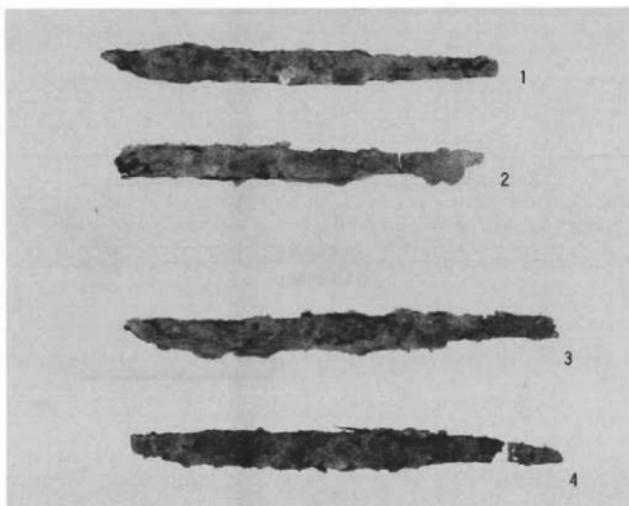
平成19年度は上土室遺跡から出土した鉄製品の保存処理を委託事業として実施した。

今回処理を施した遺物は、上土室遺跡の土坑墓内から出土したものである（表1）。

これらの遺物はいずれも腐食が進行しており、迅速な対応が求められることから、樹脂含浸による保存処理をおこなった。

番号	種類	法量(cm)				備考
		全長	刃部長	全幅	厚	
1	鉄刀	30.5	20.3	2.5	0.5	完形
2	鉄刀	29.0	18.0	2.7	0.8	先端欠、木質残存
3	鉄刀	32.0	24.0	2.7	0.8	茎折
4	鉄刀	34.3	23.0	2.7	0.8	先端欠、茎折

表1 上土室遺跡出土鉄製品一覧



上土室遺跡出土鉄製品

IX. 開鶴山古墳規模確認調査(第6次)

開鶴山古墳は、平成14年の調査によって未塗掘の主体部（堅穴式石室）2基をそなえた4世紀前半の前方後円墳であることが明らかとなり、同年に国史跡の指定を受け、恒久的な保存が図られている。高槻市では保存整備に向けて継続的に確認調査を実施している。

今回の第6次調査では前方部東南側一帯の丘陵部斜面において造構の確認と、後円部北西側裾部の状況把握を目的に、合計6ヶ所の調査区を設定して実施した（総面積は約467m²）。

【前方部東南側丘陵部斜面】調査区を5ヶ所設定し、造構の確認と上層の観察に努めた。このうち、主に傾斜部に設けた調査区（2～5トレンチ）では古墳に伴うとみられる造構は存在せず、東側及び南側に向かって下降していく地山面を確認したのみである。堆積土から須恵器の小片が出土した（5トレンチ）。

一方、東側斜面に位置する高まりは、小規模な墳丘を有する古墳の可能性が指摘され「開鶴野古墳」として認識していたことから、その実態を把握するため、ほぼ全面にわたり調査をおこなった（1トレンチ）。表土及び堆積土除去後の精査で振り込み等の造構は全く確認できなかつたため、全体の断ち割り調査をおこなったところ、およそ25m×15mの範囲に人為的な盛土が確認できた。この盛土は、白色粘土ブロックを含む黄灰色粘土によって形成されており、上層部が大きいことが特徴で、最も厚い部分ではおよそ1.5mに及ぶ。盛土の下部では東側に傾斜する地山面（明褐色シルト）が確認でき、それらの境界には旧表土とみられる黒褐色砂質土が残る部分もあった。盛土からは遺物が出土しないため、時代が特定しにくいものの、大規模な盛土状況がうかがえることから、この高まりは開鶴山古墳の東側で昭和30年代におこなわれた宅地造成と同時になされた盛土と理解することができ、古墳ではないことが判明した。

【後円部北西側裾部】1次調査4トレンチの東約4mの位置に設定した調査区（6トレンチ）では、下段斜面を約5.2mにわたって確認した。検出した斜面上部では比較的良好に造存しており、一辺10～25cmの葺石を検出した。一方、下部の葺石は10～15cm程度とやや小ぶりであり、基底石として認められる大きさの石はみられない。しかし斜面の傾斜変換点（標高79.9m）付近に横方向に据えられた石が存在していることから、この部分を斜面裾部と認定することが可能である。また斜面に迷なる平坦部でも直径10cm程度の礫の分布がみられ、斜面だけでなくその外側の平坦部にも礫敷がおこなわれた可能性が指摘できる。これは、第3次調査で検出した後円部東南側裾部平坦面の石敷造構との共通性も想起される。開鶴山古墳では、墳丘頂部平坦面やテラス部にも小礫を敷いていることが判別し、墳丘全体を石で覆っていたことが大きな特徴となっており、今回の後円部北側外側平坦部の礫敷との関連が注目される。なお、本調査区から遺物は出土しなかった。

(高橋)

X. 今城塚古墳事前確認調査

第4次整備工事に先立ち、墳丘各部の状況を事前に確認するために実施したもので、後円部、南北造山、前方部南北両端部について調査区を設定した。

後円部北側では平成18年度に実施した第10次規模確認調査において、石室基盤工を検出したことにより、現存する墳丘の上面に構築されていたものが、文禄五（1596）年の伏見地震によって南北方向に滑落・崩壊したことが明らかになっている。調査区は後円部上面に設定したもので、第10次調査と同様に炭や焼けた埴土を含む整地層と搅乱が広がり、これを除去すると約0.1～0.9m下方で花崗岩やホルンフェルスの川原石を検出した。基盤工の一端とみられ、南と東側へむかって滑落・崩壊した状況となっていた。石材は数石の重なりがみられるものの、現代とみられる搅乱などもあって良好な遺存状態ではない。ただ、長方形の石材が東側で南北方向、南側で東西方向に据えたものがあることから、南東コーナーに近いことがうかがえる。整地土からは石棺、鉄製品、ガラス小玉などが小片となってわずかに出土した。

造出は南北ともに西辺側の状況を確認した。地滑りによって墳丘からの滑落土や葺石に覆われた状況である。北側では旧表土上から最大で0.5mの盛土が遺存していた。造出での盛土をはじめて確認したもので、墳丘で確認している黒灰色を呈したうろこ状の盛土ではなく、黄灰色土を用いていた。南側は地滑りのために、護岸列石等も遺存しない。崩壊土中からは墳丘からとみられる円筒埴輪類が出土したほか、内濠堆積土からは少量の須恵器や蓋とみられる形象埴輪片が出土した。

前方部は南北両端の裾部から内濠にかけての調査を実施した。とともに、近世以降から現代にいたるまで貯水池としての利用されていたこともあり、泥土が厚く堆積していた。これを除去すると、コーナー部分は両隅部とも現況の池底から下方の緩斜面が広くとられた状況で、コーナー部分は緩やかにカーブしていた。泥土中からは、微量の円筒埴輪片がみつかるものの、護岸列石などは全く検出することができず、すでに転落したか、池の維持活動のなかで撤去された可能性が指摘できる。

（宮崎）

抄
録

フリガナ	シマガミセキダン			
書名	鷺上遺跡群			
副書名				
巻次	32			
シリーズ名	高槻市文化財調査概要			
シリーズ番号	35			
編集者名	鍾ヶ江一郎 橋本久和 宮崎康雄 高橋公一 早川圭 清水良真 西村恵洋 佐伯めぐみ			
編集機関	高槻市教育委員会文化財課埋蔵文化財調査センター			
所在地	大阪府高槻市南平台五丁目21-1			
発行年月日	2008年3月			

フリガナ	シマガミセキダン			
所収遺跡名	鷺上遺跡 39-K・L・O・P地区			
フリガナ	シマガミセキダン			
所在地	大阪府高槻市家新町270、271、272、273の各分			
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積
市町村	遺跡番号			
27207	39	34° 51' 17"	135° 35' 52"	20080107
				32.66m ²
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物
鷺上島断跡	官衙	奈良・平安		

フリガナ	シマガミセキダン			
所収遺跡名	中城遺跡			
フリガナ	シマガミセキダン			
所在地	大阪府高槻市昭和台町二丁目127			
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積
市町村	遺跡番号			
27207	47	34° 49' 53"	135° 35' 03"	20070720
				20070724
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物
中城遺跡	集落	弥生・中世		

フリガナ	シマガミセキダン			
所収遺跡名	高槻城跡 (2007-1)			
フリガナ	シマガミセキダン			
所在地	大阪府高槻市野見町1251-6、1251-8、1251-21の各一部			
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積
市町村	遺跡番号			
27207	85	34° 50' 51"	135° 36' 57"	20070827
				20070828
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物
高槻城跡	城館	近世		

フリガナ	シマガミセキダン			
所収遺跡名	高槻城跡 (2007-2)			
フリガナ	シマガミセキダン			
所在地	大阪府高槻市八幡町1495-2			
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積
市町村	遺跡番号			
27207	85	34° 50' 46"	135° 37' 18"	20071225
				立会
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物
高槻城跡	城館	近世		

フリガナ 所収遺跡名	ミクリ遺跡 (2007-1)				
フリガナ 所在地	村野カタカタシニシマ 大阪府高槻市西町1041-64				
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 49' 26"	135° 35' 36"	20070903 20070904	立会	個人住宅 建設工事
所収遺跡名 種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
ミクリ遺跡 集落	弥生				

フリガナ 所収遺跡名	ミクリ遺跡 (2007-2)				
フリガナ 所在地	村野カタカタシニシマ 大阪府高槻市西町38-11				
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 49' 27"	135° 35' 43"	20071029 20071030	立会	個人住宅 建設工事
所収遺跡名 種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
ミクリ遺跡 集落	弥生				

フリガナ 所収遺跡名	ダングホンザイ 郡家本町遺跡 (2007-1)				
フリガナ 所在地	村野カタカタシゲンホンザイ 大阪府高槻市郡家本町1606-1				
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 51' 36"	135° 35' 41"	20070925 20070926	立会	個人住宅 建設工事
所収遺跡名 種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
郡家本町遺跡 集落	弥生				

フリガナ 所収遺跡名	ダングホンザイ 郡家本町遺跡 (2007-2)				
フリガナ 所在地	村野カタカタシゲンホンザイ 大阪府高槻市郡家本町1565-3				
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 51' 33"	135° 35' 42"	20071207	立会	個人住宅 建設工事
所収遺跡名 種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
郡家本町遺跡 集落	弥生				

フリガナ 所収遺跡名	フニイセイ 津之江南遺跡 (2007-1)				
フリガナ 所在地	村野カタカタシゲンホンザイ 大阪府高槻市津之江北町263-18				
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 40"	135° 36' 07"	20071226	立会	個人住宅 建設工事
所収遺跡名 種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
津之江南遺跡 集落	中世				

フリガナ 所収遺跡名	トツガイ村 富田遺跡 (2007.1)				
フリガナ 所在 地	オホカタカワヨシシンドウチツカ 大阪府高槻市宮出町六丁目2671				
コード 市町村	北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因
27207 遺跡番号	34° 49' 56"	135° 35' 28"	20070614 20070619	立会	個人住宅 建設工事
所収遺跡名 富山遺跡	種 別 集 落	時 代 中世	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特記事項

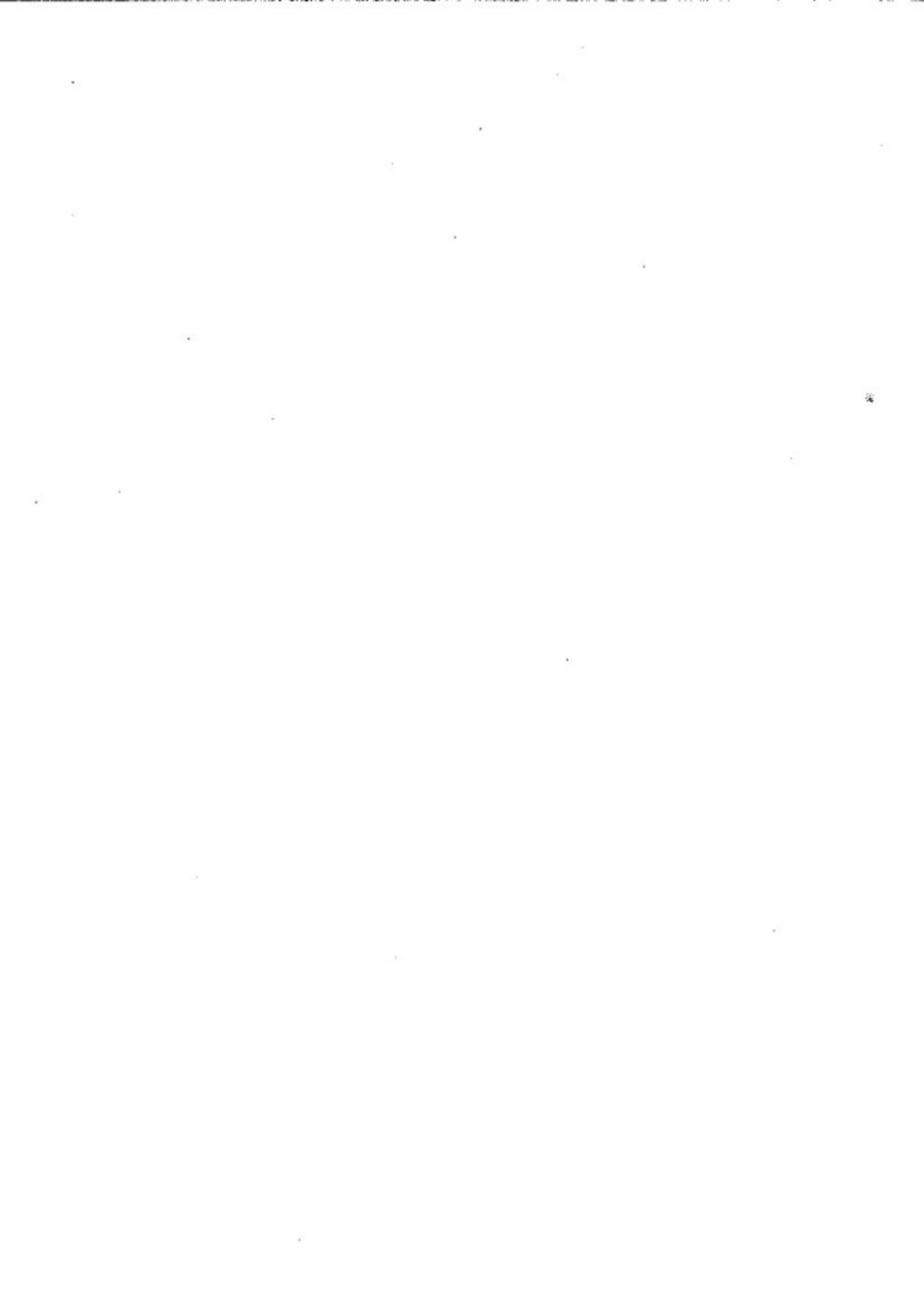
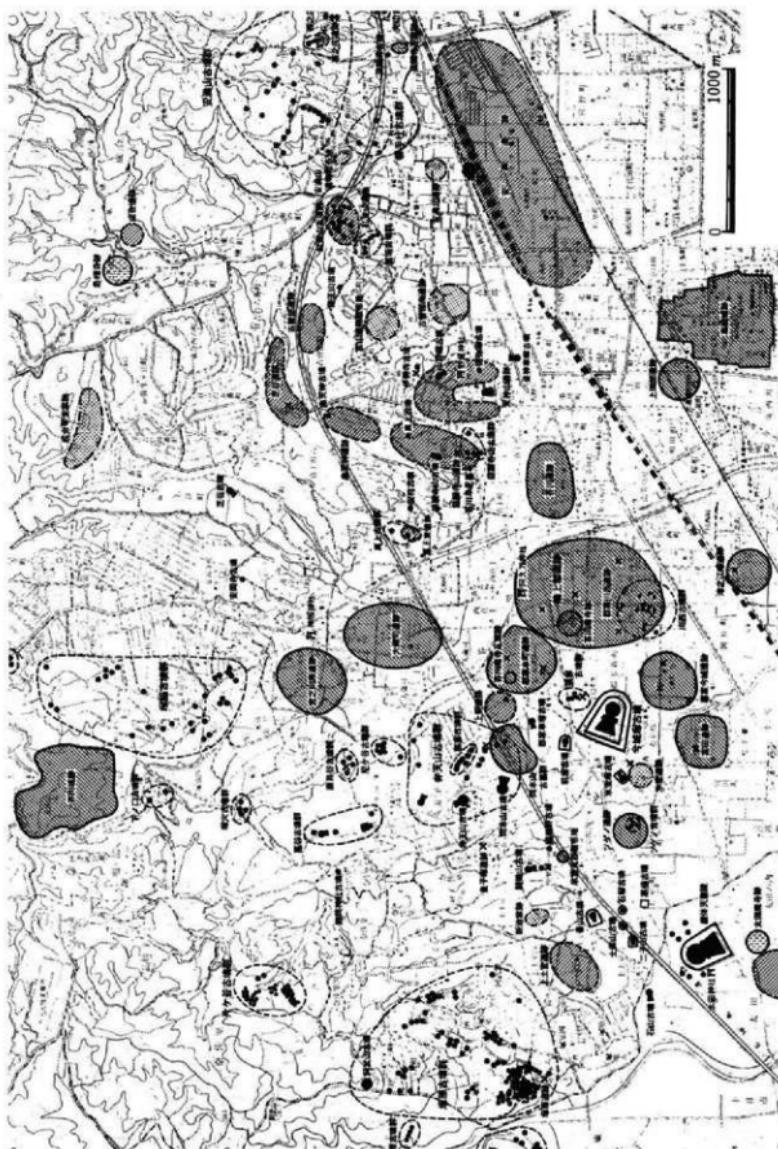


図 版



崎上郡衙跡とその周辺



a. 鳴上郡衙跡（34-K・L・O・P）全景（南から）



(北から)



b. 鳴上郡衙跡（34-K・L・O・P）出土遺物



a. 高櫻城跡（2007-2）調査区全景



b. ミクリ遺跡（2007-1）調査区全景



a. 那家本町遺跡（2007-1）調査区全景



b. 津之江南遺跡（2007-1）調査区全景



a. 開鶴山古墳 第6次調査1トレンチ全景（南側から）



b. 今城塚古墳 北造出検出状況（北側から）

高槻市文化財調査概要 35

鳴上遺跡群 32

平成 20 年 3 月 31 日

発 行 高 橋 市 教 育 委 員 会
文化財課 埋蔵文化財調査センター
高槻市南平台五丁目 21 番 1 号

印 刷 株式会社 邦 文 社
大阪市東淀川区大樹 1 丁目 4 番 9 号